

引用文献・参考文献の書き方

- ・参考文献または引用文献の目録を本文末尾にリストする。
- ・見出しは「引用文献」または「参考文献」のいずれかとする。
(「引用文献」のリストに明記できるのは出典を文献中に示したもののみ。)
- ・原則として、和文の場合は五十音順、英語の場合はアルファベット順とする。
- ・日本語を先に、英語を後にリストをする。
- ・二行目からはインデントする(ぶら下げ)。
- ・和文のフォントは漢字・仮名をMS明朝、英数字をCenturyとする。

J-CLIL Newsletter のスタイルはAPA (アメリカ心理学会) の出版マニュアルに準じています。以下、引用文献のサンプルを示しますが、さらに詳しく知りたい方は以下のAPA のサイト <https://apastyle.apa.org/> のAPASTYLE AND GRAMMAR GUIDELINES のReferences セクションをご覧ください。

和文

1. 和文・単行本

(1) 単著者

著者氏名 (出版年) 『書名』 出版社.

【確認事項：最後に半角ピリオドが入る。】

(例) 笹島茂 (2020) 『教育としてのCLIL』 三修社.

(2) 共著者

著者氏名・著者氏名 (出版年) 『書名』 出版社.

【確認事項：複数著者の場合氏名は中黒でつなぐ。最後に半角ピリオドが入る。】

(例) 渡辺良典・池田真・和泉伸一 (2011) 『CLIL(内容言語統合型学習)上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第1巻 原理と方法』 上智大学出版.

(3) 単編著者

編著者氏名編著 (出版年) 『書名』 出版社.

【確認事項：氏名の後に編著を入れる。最後に半角ピリオドが入る。】

(例) 笹島茂編著 (2011) 『CLIL 新しい発想の授業—理科や歴史を外国語で教える!?!』 三修社.

(4) 複数編著者

編著者氏名・編著者氏名編著 (出版年) 『書名』 出版社.

【確認事項：複数編著の場合氏名は中黒でつなぐ。最後の氏名の後に編著を入れる。最後に半角ピリオドが入る。】

(例) 池田真・渡辺良典・和泉伸一編著 (2016) 『CLIL(内容言語統合型学習)上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第3巻 授業と教材』 上智大学出版.

(5) 和文・単行本掲載の論文/章

著者氏名 (出版年) 「題名」編著者氏名編著『書名』(pp.ページ)出版社.

【確認事項：複数の氏名の場合は中黒でつなぐ。最後の編著者の氏名の後に編著を入れる。ページ数は (pp.～) とし、始めのページと終わりのページを入れる。最後に半角ピリオドが入る。】

(例) 池田真 (2012) 「第一章 CLIL の原理と指導法」和泉真一・池田真・渡辺良典編著『CLIL(内容言語統合型学習)上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第2巻 実践と応用』(pp.1-15)上智大学出版.

2. 和文・雑誌掲載論文

(1) 雑誌名が和文

著者氏名 (出版年) 「論文名/記事名」 『雑誌名』 巻 (号) , ページ.

【確認事項：雑誌記事名は「」、雑誌名は『』巻の後の号は（ ）で示す。ページは数字のみ。】

(例) 柏木加津子 (2015) 「イタリアの小学校における CLIL 実践に学ぶ」 『英語教育』 63(11), 54-56.

(2) 雑誌名が欧文

著者氏名 (出版年) 「論文名/記事名」 *雑誌名*, 巻, ページ. URL

【確認事項：雑誌名が欧文の場合は巻を含め斜体とする。電子版の場合は URL を入れる。】

(例) 柏木加津子 (2019) 「オーストリアの Science in CLIL-ディコース分析からみる思考の深さー」 *J-CLIL Newsletter*, 4, 4-8. https://www.j-clil.com/files/ugd/d705d2_1ac072b276c543a185d65203d2832191.pdf

3. 和文ウェブサイト

著者氏名/管理運営組織名 (記事執筆年/データ公開年) 「ページ名」 『サイト名』 年月日アクセス URL

【確認事項：ページ名は「」、サイト名は『』に入れる。】

(例) 外務省 (2022) 「外交政策」 『外務省ホームページ』 2022年9月1日アクセス <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/report.html>

4. 和文新聞記事

(紙面)

記事名 (発行年月日) 『紙名』 pp.ページ. URL (オンラインの場合のみ)

【確認事項：記者名がない場合は記事名から始める。ページの前に p./pp.を入れる。オンラインの場合は URL を入れる。】

(例) 英語指導などで外国青年 750 人招く 地方自治体、87 年夏に (1986 年 10 月 9 日) 『朝日新聞』 p.1.

記者名/執筆者名 (発行年月日) 「記事名」 『紙名』 URL (オンラインの場合)

(例) 鳥飼玖美子 (2018 年 9 月 17 日) 「複数の英語試験を入試活用『欧州基準』で換算、適切」 『日本経済新聞』 <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO35384080U8A910C1CK8000>

欧文

1. 欧文・単行本

(1) 単著者

著者ラストネーム, 著者ファーストネームのイニシャル. (出版年). 書名. 出版社.

【確認事項：書名は斜体。出版地は記載しない。】

(例) Dalton-Puffer, C. (2007). *Discourse in content and language integrated learning (CLIL) classrooms*. John Benjamins Publishing Company.

(2) 共著者

[2名]

第1著者ラストネーム, 第1著者ファーストネームのイニシャル., & 第2著者ラストネーム, 第2著者ファーストネームのイニシャル. (出版年). 書名. 出版社.

【確認事項：第1著者と第2著者は、(カンマ)と&でつなげる。出版地は記載しない。】

(例) Coyle, D., & Meyer, O. (2021). *Beyond CLIL*. Cambridge University Press.

[3名]

第1著者ラストネーム, 第1著者ファーストネームのイニシャル, 第2著者ラストネーム, 第2著者ファーストネームのイニシャル, & 第3著者ラストネーム, 第3著者ファーストネームのイニシャル. (出版年). 書名. 出版社.

【確認事項：第1著者と第2著者はカンマで、第3著者（3名以上の場合は最後の著者）は、(カンマ)&でつなげる。出版地は記載しない。】

(例) Ball, P., Kelly, K., & Clegg, J. (2015). *Putting CLIL into practice*. Oxford University Press.

(3) 単編著者

編著者ラストネーム, 編著者ファーストネームのイニシャル. (Ed.)(出版年). 書名. 出版社.

【確認事項：編著者のファーストネームの後に(Ed.)を入れる。書名は斜体にする。】

(例) Williams, C. (Ed.) (2015). *Innovation in Methodology and Practice in Language Learning: Experiences and Proposals for University Language Centres*. Cambridge Scholars Publishing.

(4) 複数編著者

第1編著者ラストネーム, 第1編著者ファーストネームのイニシャル, & 第2編著者ラストネーム, 第2編著者ファーストネームのイニシャル. (Eds.)(出版年). 書名. 出版社.

【確認事項：複数編著者の場合は最後の編著者の前に、(カンマ)&を入れる。最後の編著者のイニシャルの後に(Eds.)を入れる。書名は斜体にする。】

(例) Anderson, L., & Krathwohl, D. (Eds.) (2001). *A taxonomy for learning, teaching, and assessing: A revision of Bloom's taxonomy of educational objectives*. Longman.

(5) 欧文・単行本掲載の論文/章

著者ラストネーム, 著者ファーストネームのイニシャル. (出版年). 論文名. In 編者名(Ed.) 書名. (pp. ページ). 出版社.

【確認事項：著者はラストネーム, ファーストネームのイニシャルの順となるが、In の後に編者を書く場合は In ファーストネームのイニシャル. (ピリオド) ラストネーム (Ed.) となる。編者が複数の場合は、編者名を、&でつなげ (Eds.) とする。またページ数は(pp.~)で表す。論文名は正体、書名は斜体となる。】

(例) Coyle, D. (2002). Relevance of CLIL to the European Commission language learning objectives. In D. Marsh (Ed.) *CLIL/EMILE The European dimension: action, trends and foresight potential*. (pp.27-28). European Commission.

2. 欧文・雑誌掲載論

著者ラストネーム, 著者ファーストネームのイニシャル. (出版年). 論文名, 雑誌名. 巻(号) ページ.

【確認事項：論文名は正体、雑誌名・巻は斜体、号は正体で()に入れる。ページは数字のみで pp. は入れない。雑誌名はイニシャルを大文字にする。DOI がある場合は、[https://doi.org/\(DOIコード\)](https://doi.org/(DOIコード))を記載する。ウェブの場合は URL を載せる。】

(例) Li, W. (2018). Translanguaging as a practical theory of language. *Applied Linguistics*, 39(1), 9-30. <https://doi.org/10.1093/applin/amx039>

3. 欧文ウェブサイト

著者ラストネーム, 著者ファーストネームのイニシャル. (またはサイトの管理運営組織名). (記事執筆年/データの公開年). ページ名. サイト名. Retrieved on Month Date, Year, from URL.

【確認事項：公開年が不明の場合は(n.d.) ページ名は正体、サイト名は斜体。取得年月日と URL を入れる。】

(例) Council of Europe (ECML/CELV). (n.d.). Pluriliteracies FAQ. *A pluriliteracies approach to teaching for learning*. Retrieved on September 20, 2022, from

<https://pluriliteracies.ecml.at/Principles/ConceptualizingLearningProgression/tabid/4273/language/en-GB/Default.aspx>

4. 英字新聞記事

記者名. (発行年月日). 記事名. 紙名. Retrieved on Month Date, Year, from URL

【確認事項：記事名は正体、紙名は斜体。取得年月日と URL を入れる。】

(例) Morgan, E. (2022, September 4). Britain's multilingual children: 'We speak whatever language gets the job done'. *The Guardian*. Retrieved on September 20, 2022, from <https://www.theguardian.com/science/2022/sep/04/britains-multilingual-children-we-speak-whatever-language-gets-the-job-done>